千刈狸の呟き

～ 譫　妄 ～

仔　狸

仔狸の塒の周りの雪もだいぶ溶け、厳しかった冬もいよいよ終わりを告げるのかと思えるようになりました。いつもなら送別会・歓迎会と忙しい年度の変わり目を迎えるはずですが、この１～２年は状況が変わってしまいました。大勢での酒宴ができないため、送別・歓迎の思いを公に伝える場はなかなか持てず、気が付けばスタッフが入れ替わっています。今までなら歓迎会・忘年会・送別会で、いわゆる“飲みニケーション”でお互いを知り合う機会があったのですが、紙面による報告だけを見ても相手のイメージは伝わりません。今どきのシャイな狸たちは、初めて会ったからといっても自己紹介をすることもなく、１年ぐらいかけてやっと顔と名前が一致した頃に異動してしまうこともあります。

もっと広い社会で考えると、学生狸は入学式や修学旅行・運動会・部活動・卒業式などあらゆる行事に何かしらの制限や中止を余儀なくされて過ごしています。大学狸はオンラインで学校にはほとんど行かないままに進級していくことになるのでしょう。同窓生という横の大きなつながりが弱くなっていくことは仕方がないことなのかもしれません。

さて、仔狸の働いている病院には多くの老狸が入院しています。病の治療のために絶食となっている場合、多かれ少なかれ“譫妄”と呼ばれる状態となってしまいます。今まではしっかりしていたのに…などと周りを驚かせる状況になってしまうこともありますが、食事が始まると元のしっかりした狸に戻ります。三度の食事を決まった時間で摂るということが、老狸にとって１日のリズムを守るためにはとても大切なのだということがよくわかります。老狸の環境で考えると、様々な福祉サービスの制限や敬老会、施設入所中の面会制限、孫狸に会えないことなども大きなストレスなのだと思います。このようなストレスや社会的活動の制限が老狸の精神的な老化を加速してしまうのはもはや止められないことなのでしょうか。

いろいろな行事に自粛を求められて、季節のイベントが行えない若者狸にも同じようなことが起こってくるのではないかと心配になります。塒に引きこもったままでも宅配サービスなるもので、食料や物品を手に入れることができます。オンラインでつながることはできますが、大勢が集まって一つのことを成し遂げるという高揚感の得られるようなことは少なくなり、刺激のない日々を過ごしている今日この頃、雪が溶けて初めて春を感じました。コロナ禍のあっという間の１年だった…と思ったらすでに２年が過ぎていました。刺激のない日々にすっかり精神は弛緩してしまっているようです。

コロナ禍と寄り添いながら生きるということも少しずつ進んでいます。ワクチン接種もあれば治療薬、時短・人数制限・オンライン…。今思えば、最初に得体のしれない感染症として認識されたころに比べれば、正体も少しずつ明らかにされいくらかの抵抗もできるようになり、怖くて引きこもっていたことが嘘のように、日常生活の制限に不満を持てるようになりました。コロナ禍のおかげでリモートでの仕事に関することは急速に進化を遂げ、社会全般では狸同士の直接対決でしなければならない仕事は少なくなったとは思われますが、病院という特殊な環境ではやはり直接向き合わないとどうにもできないことが多いのは仕方ないことかと思います。

近年、様々な治療薬の研究・開発で癌に罹患しても戦える武器を得てきたこの世界でした。大きな力が生命の摂理に逆らっていると感じたのか突然発生した感染症が次々と命を奪い、生活環境を脅かしてきたこの２年余り、少しずつ生活を取り戻そうとしたところで、今度はもっとも原始的で乱暴な方法で尊い命が失われているということは信じがたいことです。いま世の中で起こっていることが、コロナ禍で自粛自粛と刺激がない生活を送ってきた仔狸の譫妄であってくれればと思います。